※令和４年度以降入学生用

学校番号	3023

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	（学）数学演習Ⅰ・A	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等	ニューステージ数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B・C　（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
・「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程で、自分の考えを発表、議論したりします。
・問題をまず自分で解いてみましょう。ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方も書くようにしましょう。また、各自答え合わせをしてください。答え合わせは、自分がどこでつまずいたかを知るための大切なものです。
・家庭学習における課題・宿題は、定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。

2　学習の到達目標

数学Ⅰ・A の全範囲を、副教材を用いて基礎から復習し、数学Ⅰ・A を活用するための知識や技能を習得する。
１つの問題に対して複数の解答を考えることで、出題の数学的背景を考察する能力を養う。
１０月からは、実践問題を演習し、数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を身に付ける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	１年次に学んできた内容を整理し、まとまった知識として活用しようとする。また、問題として問われている内容を数学的に表現し、処理・解決することができる。	出題の数学的背景を考察し、別の方法による解答を試みたり、他の側面から解を考察したりすることができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	数学Ⅰ	式の計算 1 次不等式 集合 命題と論証 2 次関数 2 次関数の最大・最小 2 次方程式と 2 次不等式	a: 式を用いて事象を適切に表現することや見通しをもって式を扱うこと、そして、乗法公式や因数分解の公式などを用いて、式を目的に応じて変形することができる。 命題の真偽，反例の意味を理解し，集合の包含関係や反例を調べることで，命題の真偽を決定することができる。 b: 目的に応じて、的確に式を変形する方法を考察することができる。 2 次関数の特徴について，表，式，グラフを相互に関連付けて多面的に考察することができる。 c: 集合の包含関係と命題を関連付けて捉え、それらを命題の考察に活用しようとしている。 放物線のもつ性質に興味・関心を示し，自ら調べようとする。	定期考査・小テスト	定期考査・小テスト	課題ノート

※令和４年度以降入学生用

	数学Ⅰ	三角比の基本 三角比と図形 データの代表値と散らばり データの相関 仮説検定の考え方	a: 三角比や正弦定理・余弦定理を用いて平面図形や空間図形の計量をすることができる。 四分位数、四分位偏差、分散及び標準偏差などの意味を理解している。 仮説検定の考え方を理解し，具体的な事象に当てはめて考えることができる b: 正弦定理・余弦定理を導く過程を考察することができる。三角比と三角形の面積の関係を考察することができる。 データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察することができる。 不確実な事象の起こりやすさに着目し，実験などを通して，問題の結論について判断したり，その妥当性について批判的に考察したりすることができる。 c: 正弦定理や余弦定理が図形の計量に活用できることに着目し，これらを用いて三角形について解こうとする。 データの代表値から，その特性や傾向などを考察しようとする。 変量の変換によって，平均値や標準偏差がどのように変化するか，考察しようとする。 相関関係と因果関係の違いについて考察しようとする。	定期考査・小テスト	定期考査・小テスト	課題ノート
2	数学A	場合の数・順列・組合せ 確率 平面図形 空間図形	a: 順列・組合せの用語，記号，公式を理解し，それを利用できる。 確率の基本性質を理解し，和事象，余事象の確率の求め方がわかる。条件付き確率や確率の乗法定理を用いて確率の計算ができる。 三角形の角の二等分線に関する性質やチェバの定理・メネラウスの定理を理解し，それを利用できる。 b: 試行の結果を事象として捉え，事象を集合と結びつけて考察することができる。 空間における直線や平面が平行または垂直となるかどうかを，与えられた条件から考察することができる。 c:確率の考えに興味・関心をもち，積極的に活用しようとする。 空間における図形の位置関係について考えてみようとする。	定期考査・小テスト	定期考査・小テスト	課題ノート

※令和４年度以降入学生用

	数学ⅠA	総合演習	a:数学ⅠA に関する基本的な知識や計算技能を習得し、正解を導くことができる。 b:誘導に従い客観的に答えるだけでなく、一般化したり別解を考えるなどの、深い考察をすることができる。 c:数学の良さを認識し、論理的思考や数学知識を駆使して、社会や実生活との関連を考察できる。	定期考査・小テスト	定期考査・小テスト	課題ノート
3	数学ⅠA	総合演習	a:数学ⅠA に関する基本的な知識や計算技能を習得し、正解を導くことができる。 b:誘導に従い客観的に答えるだけでなく、一般化したり別解を考えるなどの、深い考察をすることができる。 c:数学の良さを認識し、論理的思考や数学知識を駆使して、社会や実生活との関連を考察できる。	小テスト	小テスト	課題ノート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度